

浄明寺



野木原「水東より西に流る。小山判官が遠園の跡なりと。又大手ありたり共云伝ふ」(日光駅程見聞雑記)

人魚伝説 満願寺の西で渡良瀬川と合流する思川について、「古河城の北は思川と云川也。此中に人魚うむと云伝ふ。其形、如何様の魚なるには」(日光駅程見聞雑記)

17 野木一里塚

日本橋から17里の一里塚。交差点の北西かどの民家の垣根の中に案内板がある。



妙福辨財天



満願寺

満願寺 満徳山自性院と号する真言宗の自院。宿の中央、街道西側にあり、元和2年(1615)の創建とも伝えられる。野木神社や友沼八幡宮の別当を努め、野木宿の旅館に支障があったときは宿泊所にもなったという。古図によると満願寺の南側には本陣と問屋、その向かいに脇本陣があったが、現在は本陣跡と伝えられる解説板が立つのみ。



野木神社

野木神社 代々領主の尊崇厚く、野木の鎮守であった。仁徳天皇の頃、下野国造奈良別命(ならわけのみこと)によって今より西方に祀られたが、延暦年間(901-920)に、征夷大將軍坂上田村麻呂が奥州遠征成功のお礼として現在地に遷したと伝えられる。寿永2年(1183)源頼朝方に立つ小山朝政と反頼朝方の志田義弘が戦った野木宮合戦では戦場となった。境内には本殿・拝殿のほか、ケヤキの巨木群、坂上田村麻呂が植えたという樹齢1200年という大イチョウがある。参道の途中には墳と呼ばれる宝曆10年(1760)建立の芭蕉句碑「一疋のはね馬もなし河千鳥」がある。また、山梨有朋の書による社額も残る。境内の左奥に大きな錨がある。裏の思川の川底に埋もれていたもので、盛んだった船運が偲ばれる。また、日露戦争の2年前の明治35年(1902)当時54才の乃木希典対象が姓が同じの神社に詣で、指揮用サーベルなどを奉納した。



36 古河宿 ~ 野木宿 茨城県古河市 栃木県野木町 松並 ~ 野木 (歩行距離 1750m 22分) 歩く地図でたどる日光街道 http://nikko-kaido.jp/ JZE00512@nifty.ne.jp



脇本陣跡 (熊倉家)



本陣跡 (熊倉家)

野木本陣は左京の子孫熊倉宅、内膳の子孫が脇本陣熊倉家。現在は当時の面影はありませんが、本陣跡に野木宿についての説明板がある。

10 野木宿

野木宿は、江戸から10番目、日光街道が下総から下野に入った最初の宿場。現在、宿の面影はほとんど残っていないが、古くからの神社仏閣があり歴史が感じられる。「日光・奥州・甲州道中宿村大概帳」では、町並みの長さが10町55間(約1.2km)、家が126軒、旅籠が25軒、本陣・脇本陣が各1間、問屋場が4軒あり、宿の人口は527人(男271人、女256人)、駄賃・賃銭荷物一駄・乗掛荷人共1疋53文、人足1人40文でした。 「当宿むかしは三分にして、本野木・新野木と号せしを、慶長年中(1596-1615)合せて一宿とせり」(日光道中略記)最初に開けたのは本野木で、今の街並みの南半分にあたる。「本野木(もと野木と唱へしを、新野木に対して本字を加ふ)は古くよりひらけし地なり。其頃は人民、漆原・大夫白元屋舗の三所に居住せしが、村民左京・内膳の二人はじめて今の本野木の地に移り家居をいとみしかば、三所の民追々徒(うつ)りて遂に数十軒に及びべり。左京・内膳の二人は熊倉氏にて中ごろ明神の神職となりしが、此地宿駅となりし時、職を転じて駅亭となりしといふ。今本陣七郎右衛門は左京が子孫にして、脇本陣兵左衛門は内膳が後なり」これに対して新野木は、「天正14年(1586)秀康御領し玉ひし時、新野木の方のみ宿所に取立られ、諸役免許ありし」さらに、「慶長7年(1602)に至り、松平丹波守領主のとき本野木をも駅亭とし、両野木合せて一宿とし、奥州・日光両道の数に入れ、役夫廿五人、馬廿五匹を置いて継立の事を勤む」(日光道中略記) また、宿の西を流れる思川は、鉄道が開通する前まで舟運が盛んで、江戸との間を高瀬舟が行き交っていました。野木には野渡河岸、友沼河岸がありました。

参道 鳥居から拝殿まで続いている道が参道である。参道の中央は「正中」と呼ばれ、神様の通り道とされてきた。つまり正中は、本殿の神が俗界に渡る道であるため、踏み入ってはならない聖域である。そのようなわけで、参道を歩くときには、真ん中を歩かないように注意しなければならない。参道は、神に近づくための気分を高めるのに大切である。参道を屈折させたり、階段を設けたりなどの変化をつけているのはそのためである。また祭礼のさいにこれらの参道には屋台が立ち並ぶこともある。神社の門前に形成された門前町では、その町の往来が参道となっている場合が多い。



新野木木戸口 ここから新野木。野木宿江戸側入口で木戸があった。松並木案内板がある。

4号線を行くと利根川の手前、中田宿で日光街道と合流する

左筑波 この辺りの道は大きくカーブしており、昔は左筑波と呼び、道中でここだけが普通右に見える筑波山が左に見えるというが、今は曲がり方が変わりはっきりしなくなった。

下総国と上野国境 「宿の末、松並木の東に早菜(さいから)樹、西に榎木あり。是は下総国葛飾郡と下野国寒川郡の国界の表なり」(日光駅程見聞雑記)

塩滑地蔵 Yショップ(小橋商店)左横の細い路地奥に塩滑地蔵がある。車庫みたいにして車か停めてあるので、入口の石柱を探す。建物左にかが置いてあり、塩が入っている。「体の悪い場所に塩を塗ると治る」といって伝えられている。

coffee time

塩滑地蔵